

「小さな拠点」づくりHub in 静岡市 住民主体の地域づくりの支え方

一里山くらしLABOに学ぶー 開催概要

● 開催要領

- 開催日時 2026年1月29日(木)～30日(金)
- 開催場所 静岡県静岡市清沢地区
- 参加者
 - ・行政関係者（都道府県）
 - ・行政関係者（市区町村）
 - ・地域活動団体
 - ・民間企業
 - ・大学関係者
 など17名



● プログラム

[1日目] ガイダンス・現地見学・取組紹介

- 11:15 静岡駅集合（静岡駅から会場までは送迎を予定しています）
- 12:00 現地見学・昼食
 - ・きよさわ里の駅
 清沢地区の地域おこしの一環で始まった地域特産品「清沢レモン」を見学、地区の交流拠点である「きよさわ里の駅」の手づくりランチ（有料）を食べながらスタートします。
- 13:00 ガイダンス
 - ・ガイダンス
 - ・取組概要の説明
 一里山くらしLABOの成り立ちと取組の全体像、地域運営組織等への伴走支援について理解します。
- 13:40 取組事例の紹介
 - ①静岡市大川地区における移住促進の取組
 - ②清沢レモン部への事業継承と収益強化の取組
 - ③静岡市による中山間集落支援の取組
 活動に関わる地域運営組織や自治体の担当者をゲストスピーカーに、具体的な取組（移住促進/地域産業/集落支援）の実践や連携を学びます。
- 18:00 静岡駅にて解散（希望者はその後懇親会（会費制））

[2日目] 意見交換（会場：静岡駅周辺の会議室を予定。参加者に別途連絡します。）

- 9:30 振り返り
 - ・活動のポイントや深掘り
 - ・意見交換
 1日目の学びを振り返り、今後の実践につなげていくためのポイントや課題の乗り越え方について、参加者間でシェア、議論します。
- 12:00 終了・解散

● プログラムの概要

(1) 全体ガイダンス

一里山くらしLABO 池田氏・河村氏

● 「住民主体の地域づくりの考え方」

- 人口減少・高齢化が進む地縁組織の課題解決を目的に活動

区分	具体例
分析支援	・中学生以上全住民アンケート★ ・市内全自治会アンケート★ ・移動支援の実態調査★
初動伴走型支援	・大川地区移住促進活動支援 ・中山間地の子育ち孤立改善 ・限界集落の活性化支援
継続伴走型支援	・清沢レモン事業継承&収益力強化
アドバイザー支援	・自治会・町内会の個別支援 ・中山間地域の学校統合の支援
情報提供による支援	・自治会活動のための冊子「自治会マガジン」★ ・自治会多文化共生ガイドブック★ ・マンション防災ガイドブック★ ・事例共有のための自治活動取組発表会★ ・講演会、研修会(自治会・社団向け)★
人材育成支援	・地縁組織の人材育成連続講座★

(2) 事例紹介、中間支援の着眼点からの学び・考察

① 静岡市大川地区における移住促進への支援

大川移住定住促進協議会 会長 永野守氏

- 取り組む根拠となる空き家調査を実施→地域の本気を促す
- 移住促進に取り組む組織を立ち上げ→意欲ある人が動ける体制をつくる
- 空き家物件の掘り起こし、受入体制構築で、1年半で6家族20人が移住

② 清沢レモン部への事業継承と収益強化の取組

NPOフロンティア清沢 清沢レモン部長 宮本佐知子氏

- 平成23年に始まった地域おこし事業の存続の危機に対して、地域を巻き込む事業として再構築
- 「女性の活躍」「持続可能性」「地域振興」に着目した運営スキームに
- 販路拡大、広報強化、新商品の開発、地域への還元で収益を強化

③ 静岡市の中山間集落支援の取組


静岡市中山間地域振興課 関本氏

- 中山間地域を盛り上げるため「オクシズ」の愛称で振興計画を展開
- 地域をよく知り、支援スキルをもつ中間支援との連携が有効
- 全体最適化を見る行政施策に対して、地域との隙間を埋める存在

● 意見交換

- 話題提供「持続可能な地域自治のための中間支援、集落支援のポイント」
 - 里山くらしLABOの地域支援の心がけ、中間支援としての基本姿勢を共有

今、地域で必要なのは実行者
||
地域づくりは「誰がやるか」



地域が動くきっかけをつくる

- ①かぞえる → 数値化
- ②くらべる → 比較
- ③しらべる → 事実確認
- ④たずねる → 調査

- 意見交換 現地ワークを通じた「気づき」「学び・活用したいこと」
 - **気づき**：誠意を持って取り組む姿勢、女性参画、行政との連携体制、仲介者としての意識（結果的に取組が進みやすい）等
 - **学び・活用したいこと**：数字による客観的評価、できる・できないの明確化、無理しないが継続する、地域が主体であり成果は地域に戻すこと 等
- 参加者振り返り：地域支援に必要・重要なポイントの考察
 - 中間支援組織の現場での関わり方、支援プロセスの設計・伴走の全体像への理解が進んだ
 - ・ データ（客観的根拠）に基づく合意形成
 - ・ 住民自らが納得・選択できるような場や過程のデザイン
 - ・ 地域住民、行政、他主体との関わり方や、複雑な利害関係をまとめていく調整スキル、多角的な調整手法

当事者の声と活動事例を通じて活動の熱量や実態を体感した！



地域の人が同じ目線で地域づくりに取り組んでいることに感銘！

数字で地域を見える化
※個別状況の把握はヒアリングが必要

全体を見て、福祉・健康など必要な支援の主体に引き渡すことが重要

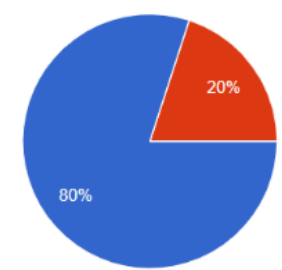
清沢地区 地域活動の不足度ランキング

	10-20代	30-40代	50-60代	70代以上
1	移動支援	移動支援	移動支援	耕作放棄地対策
2	情報発信	耕作放棄地対策	耕作放棄地対策	防災活動
3	子育て支援	高齢者生活支援	子育て支援	経済活動
4	移住者受入れ	移住者受入れ	高齢者生活支援	地区内広報
5	高齢者生活支援	子育て支援	防災活動	高齢者生活支援
6	防災活動	情報発信	防犯安全	移動支援
7	環境美化	防災活動	経済活動	防犯安全
8	耕作放棄地対策	防犯安全	情報発信	子育て支援
9	交流活動	環境美化	環境美化	環境美化
10	地区内広報	経済活動	移住者受入れ	交流活動
11	高齢者イベント	生涯学習	地区内広報	移住者受入れ
12	防犯安全	地区内広報	子供イベント	情報発信
13	子供イベント	交流活動	生涯学習	生涯学習
14	経済活動	子供イベント	伝統文化	子供イベント
15	生涯学習	伝統文化	交流活動	イベント開催
16	伝統文化	高齢者イベント	高齢者イベント	伝統文化
17	イベント開催	イベント開催	イベント開催	高齢者イベント

- 里ラボの中間支援
- ①御用聞き、アイデア出しではない。
 - ②誰よりも説得力(数字・根拠)を持つ。
 - ③視野を広く(全体像を見る)。
 - ④第三者の視点(客観性)をもつ。
 - ⑤主語は「地域」。(成果は地域に)
 - ⑥責任を代わりにとる気概。覚悟。
 - ⑦個人の利益のために動かない。
 - ⑧いつまでも支援しない。
 - ⑨地域は地域の人にしか変えられない。

● 参加者アンケート結果

② 本事業はあなたの活動・事業に役立つ情報や学びがありましたか。



- 大いに役立つ情報や学びがあった
- ある程度、役立つ情報や学びがあった
- あまり情報や学びを得られなかった
- まったく役に立たなかった

【参加者回答から】

現場で信頼を得ている支援理論が実践的で参考になった

地域が主体となって展開している具体的な事例も詳しく知る機会があるとよい



地域・中間支援・行政がゴールを見据え、役割を果たすことが重要と感じた

地域運営組織の形成、最適化のための伴走支援や中間支援のあり方を学びたい